

## 新たな世界への旅立ち

### 第54回卒業証書授与式

2月28日は、平成26年度(第54回)卒業証書授与式でした。卒業生は374名でした。国歌斉唱の後、各クラスの生徒の名前が呼ばれて普通科代表の高野くん(3F1)託麻中と理工科代表の吉田くん(3T1)京陵中が卒業証書を授与されました。学校長式辞、理事長と文徳会会長の祝辞、来賓紹介、祝詞祝電披露、山下くん(3SS)熊大附属中への熊本県知事賞授与、福田さん(2SS)熊大附属中への送辞、矢ヶ部さん(3F4)花陵中への答辞、「仰げば尊し」蛍の光「校歌」の斉唱で式は終了しました。

式後は、与座くん(3T2)大津北中による記念品贈呈(自転車置き場設置)、保護者代表中村さん(3T2)の謝辞、保護者への諸連絡の後、各クラスで一人一人に卒業証書が手渡され、高校生活最後のホームルームで卒業生の高校生活は締めくくられました。

学校長式辞をご紹介します。「厳しかった冬の寒さもやわらぎ、春の訪れを感じる今日の佳き日、ただいまは中高一貫コースを含め普通科251名、理工科123名、計374名の生徒諸君に卒業証書を授与しました。卒業お

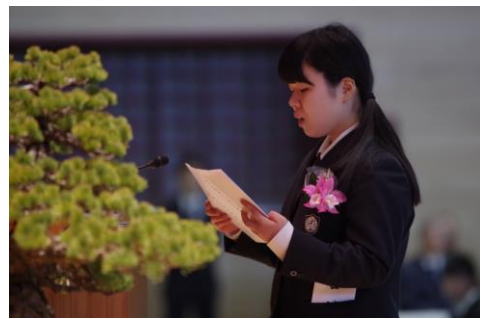


卒業式-卒業証書授与

めでとう。皆さんは、新しくできた体育館で卒業式を迎える最初の卒業生となります。晴れの門出を心から祝福します。そして、この佳き日にあたり、本校ゆかりの多数のご来賓の御臨席と保護者各位の御列席のもと、ここに第54回卒業証書授与式が挙行できますこと、誠に喜びに耐えませぬ。ご臨席賜りました皆様、心より感謝申し上げます。

さて、皆さんは3年前、桜満開のこの青春の丘で入学式を迎えました。早いもので本日は卒業の日を迎えました。文徳での3年間または、6年間を終えて今、皆さんの胸に去来するものはなんでしょうか。昨日、私の手元にも卒業アルバムが届きました。そこには皆さんの素晴らしい笑顔と、学習や部活動、学校行事などに真剣に取り組んだ姿がありました。思いおこせば、大会で勝利した喜び、努力を積み重ねて取得した資格や検定試験での達成感、進路実現に向けて夜遅くまで勉強した日々、ことだけでなく、不意な結果に流した涙や将来に対して抱いた不安など、想い出す場面は一人一人異なるでしょうが、それぞれが、かけがえのない青春の一ページになっていることと思います。

ところで、皆さんは忘れたかもしれませんが、私は3年前の入学式で「文徳高校は、体力・気力そして学力を身につける道場でありたい。志高く自己練習に励んで下さい」とお願いしました。さらに、新入生研修では、志は生きる力の源泉だという思いから、それを実現するために「夢がないと大志



卒業式-答辞

は産まれたい」「行動がないと大志は育たない」「反省がないと大志は枯れてしまう」という話をしました。計算通りにいかないのが人生ですが、反省を加えないが育まれます。文徳で身につけた「生きる力」つまり、知識やそれを活用できる論理的思考力、そしてコミュニケーション能力や協調性といった人間力を土台にして、夢や大志をさらに膨らませ、ひるむことなく新しい世界へ飛び立つて欲しいと思っています。

ところで、皆さんがこれから出て行く社会では、世界中をグローバルリズムという名の妖怪が跋扈しています。アメリカとの交渉の難航が伝えられているTPPも、日本の景気も、関係悪化が懸念されている韓国や中国などとの国際情勢も、グローバルリズムというキーワードを抜きにして語ることはできません。その中を皆さんは、どう生きてゆけばいいのでしょうか。国際社会で通用する人間とは、どのような人と言うのでしょうか。大袈裟な身振りや巻き舌で、流暢に英語を操る人物でしょうか。作家の司馬遼太郎さんは、「明治」という国家という著作の中で、アメリカ人が讃辞を送った印象深い日本人の話を書いています。それは、今から155年前、初めてニューヨークのブロードウェイを行進したサムライた

ちです。彼らは、「日米修好通商条約」の批准の為に、アメリカの軍艦ボーンハタンに乗船して渡米した江戸幕府の使節団でした。因みに、勝海舟や福沢諭吉やジョン万次郎も随行者として威臨丸で同行しています。当時の日本とアメリカ文明の格差は大変なものでした。そんな中で、一般のアメリカ人が初めて観る日本人が、その使節団でした。チョンマゲを結び、刀を差して、草履で歩く小柄な数十人の行列が、彼らの目にどう映ったか。野蛮な国から来た未開人と映ったのでしょうか。ところが、どうもそうではないらしいのです。一行がまず訪れたワシントンでは、彼らを観るために周辺の家々には誰もいなくなってしまうほどで、その後訪れたニューヨーク市では、使節団歓迎のため2万ドルという大金の支出が議決されたそうです。なぜ、そんなことが起ったのか。司馬遼太郎さんはこう書いています。「たれもが、この日本使節に感心した。その挙措動作(きょうそどうさ)、品の良さと毅然とした態度にです。ニューヨークに出現したこの未知の民族について、異文化とはいえず、大変上質なものを感心したのです。」

と、自らの進路に思い悩む時期でもありません。学校では素直な生徒たちですが、「家庭ではやり場のない思いを保護者の皆様にぶつけることもあったかもしれませんが、保護者の皆様にとっても思い悩むことの多い3年間ではなかったでしょうか。本当



卒業式-卒業生退場

にお疲れ様でした。併せて、この3年間または6年間、本校の教育方針を「理解いただき、物心両面に亘ってご支援いただきましたこと」に心から感謝申し上げます。ありがとうございます。さて、卒業生の皆さん、いよいよ本校を巣立つときが来ました。「両親様をはじめ、これまで多くの人にお世話になりましたね。いつかは恩返しをしなくては、と思っているでしょう。でも、気負うことはありません。人生はサッカーのようなものだと聞いた人がいます。向こうからパスが来る。それを受けて取って誰かにパスを渡す。また、パスが来る。受け取ってパスをする。あるときはワンタッチで、ある時はしばらくキープして、またある時はドリブルしてから。パスをする相手は保護者であったり、先輩であったり、また世の中であつたりします。しかも、パスの中味は、気持ちとか、言葉とか、日々の仕事によつてとか、多種多様です。でも、これだけは忘れないで下さい。受け取ったパスは、いつかどのような形であれ、誰かに渡さなくてはならないのです。パスのやりとりを通して人と人とが繋がることの意味なのです。

学園では、新しい体育館や実習棟が完成し、学校の佇まいは少しずつ進化していますが、この青春の丘文徳高校は諸君にとつて永遠の故郷です。辛いとき、寂しくなったとき、諸君を慰め、勇気を奮い立たせてくれることでしょうか。志を高く持ち、何事にも臆することなく自分の人生を邁進して頂きたい。そして、文徳高校を愛し、母校の後輩たちにエールを送り続ける頼りになる同窓生となつて頂きたい。皆さんの前途に幸多からんことを祈り式辞とします。」



生 — 奉仕精神を旺盛にする  
活 — 人の立場を深く理解する  
信 — 物を大切に  
条 — 礼儀作法を実践する

## 今後の予定

- 3月
- 19日 強歩会
  - 20日 終業式・退任式  
2学年学習合宿(23日まで)
  - 21日 新入生招集
  - 24日 追考査・補充授業開始  
春期課外(28日まで)

- 4月
- 8日 新任教員・始業式  
入学式準備
  - 9日 入学式
  - 10日 2・3年生授業開始  
対面式・新入生テスト
  - 13日 新入生研修(4/14まで)
- ※変更になる場合があります。



淵徳会激励式-卒業生代表挨拶

### 淵徳会激励式

2月16日に、3年生を対象とした淵徳会激励式が行われました。  
緒方淵徳会会長と学校長挨拶の後、福島隆弘氏平成9年3月普通科卒・社会福祉法人「星峰会」理事より、社会に出たならば、自分をアピールしてください。そのためには、挨拶とコミュニケーションが大切ですよという内容と共に、「考えは言葉となり、言葉は行動となり、行動は習慣となり、習慣は人格となり、人格は運命となる。」という、英初の女性首相であるマーガレットサッチャー氏の言葉が贈られました。その後、卒業生を代表して高本くん(3T3西合志中)が挨拶を述べ、各クラスの幹事紹介、タイムカプセル収納式で会は終了しました。タイムカプセルの開封式は2025年8月16日です。



産業ビジネスフェア

### 産業ビジネスフェア見学

2月13日に、2年理工科専門コースの生徒がグランメッセ熊本で開催された肥後銀行主催の「2015くまもと産業ビジネスフェア」の見学に出かけました。  
会場には、モビリティ関連企業22社、セミコンダクタ関連企業15社、クリーン関連企業19社、フード&ライフ関連企業5社、社会・システム関連企業14社、海外支援関連企業8社、マグネシウム関連企業1社、ソーリユーシオン関連企業7社、熊本県起業支援センター関連企業12社、崇城大学等の研究機関等13の企業団体の出展でした。  
水素エネルギーや燃料電池という最新のエネルギーなど、様々な最先端の技術が並べられた会場内を生徒たちは興味深そうに見入りながら説明を聞いていました。



SPI検査

### SPI検査

3月9日に2年生の就職希望者を対象にSPI検査が実施されました。  
SPI検査は、就職試験で利用されるもので、イエス、ノーで答える適正検査と、国語の力を測る言語テスト・数学の力を測る非言語テストで、性格と能力の2領域を測定します。能力検査では決められた時間内で速く、確実に問題を解けるかが重要です。この能力は訓練によって高まるため、日頃からの練習が大切になってきます。継続的な努力を続けて力をつけてほしいと思います。



小論文模試

### 小論文模試

2月25日に、2年普通科で小論文模試が実施されました。小論文を書くことで、様々な出来事への問題意識を高め、自分の考えを論理的に記述することが目的です。  
小論文を入試科目にしている大学も増えました。自分の考えを的確に表現するための文章力や構成力を磨いてほしいと思います。

生徒指導部では、基本的な生活大切にしながら、ルールを守ることを大切にしつかり指導していきたく思います。ルールを守る人は、ルールを守られます。ルールを守ることは、自分が集団に守られ、社会に守られるということです。小さな

平成26年度は、「規範意識の向上を目指す」をスローガンに掲げて指導してきました。この1年間を振り返って、次の3点を挙げる事ができると思います。  
1点目は、頭髪指導です。100%とは言えませんが、定期考査期間中や学年集会等で検査を実施し、全員合格するまでかなりの時間を要しましたが、根強い指導ができたと思います。  
2点目は、部活動生による挨拶運動の実施です。部活動生のエネルギーが学校全体に広がり、今まで声が出なかつた生徒も、頭を下げ、少しづつ声が出るようになったように感じています。  
3点目は、体育祭や文化祭などの学校行事を通して、クラスや学校の団結が増したことです。  
反面、今後の課題も多々残っております。社会の風潮もあるかもしれませんが、本校においても生徒の規範意識の低下が見受けられます。「ばれなければ」とか「ちよと、こーまか、このぐらいいい」といった、自己中心的な考え方が見え隠れします。携帯電話については、校内への持込が後を絶ちません。1人ではなかなかできないことでも、2人・3人と集団化することで、問題行動が多発します。社会全体の罪の意識の希薄化が、安易な行動に拍車を掛けているように感じます。

### 今年度を振り返り

生徒指導部より



卒業式-送辞

変化を見逃さぬ観察力と事前指導を重視し、時機を逃さず指導に当たって参りたいと思えます。保護者の皆様のご理解とご協力を今後とも宜しくお願い申し上げます。

### 卒業生の進学状況

国公立大学前期発表

国公立大学前期試験の結果は、東大1名(文目)、東北大1名、阪大2名、九大2名、医学部医学科3名など現役、浪人合わせると39名の生徒が国公立に合格することができました。これも一重に、ご家庭の協力があったからこそ、導くことが出来ました。本当にありがとうございました。また、それに続いていく下級生の為にも、ご協力お願い致します。

国公立大学を目指すには、おおよそ目安として、センター試験で、難関大学は最低720点、熊大は最低600点以上の点数が必要となります。国公立への進学を目指す生徒は、この点数を目指してください。

2・3年生に進級します。新学期に少しでも良いスタートを切る為に、この春休みを、自分の進路を見直す時間として、又、授業で習ったことを定着する期間として活用してみたいと思います。現在、各大学や専門学校では、新2・3年生に向けたオープンキャンパスが開催されていますので、自分の進みたい進路を再確認する為に、色々な学校のオープンキャンパスに参加してみたいと思います。

国公立大学前期発表(進路指導部より(進学編))



1年生大会で活躍した空手道部



卒業式-クラスの様子



## 日本の将来を担う人材に

進路指導部より(就職編)

熊本労働局の発表では、1月現在の県内高校生の内定率は90.6%(男子92.2%、女子88.1%)で、351名の生徒が未内定という状況です。本校では、お陰様で就職希望者全員が内定を頂き、2月28日無事卒業式を迎えることができました。文徳高校を支援して頂いた多くの皆様へ深く感謝しています。

国立社会保障・人口問題研究所がまとめた20年後の世帯数の将来推計では、世帯主が65歳以上の高齢世帯が全世帯の40.8%を占めるそうです。少子高齢化が進む中、今春卒業した生徒達は、20年後には日本の産業を担う中心的な世代に成長することを期待されています。

2011年3月11日に起こった東日本大震災から丸4年が経過しましたが、復旧・復興事業にはまだまだ時間を要します。日本の将来を担う若者として、人とかかわり、人のために汗を流し、人から信頼され、一人前の立派な社会人に成長し、それぞれの職場で輝ける存在になって欲しいと思います。卒業生諸君の健闘をお祈りします。

大学生の就職活動が、例年より3ヶ月遅い3月1日に解禁さ



就職面接

れました。面接などの選考試験は4ヶ月繰り下げられ、8月1日から実施される予定です。高卒採用試験との時期が接近するなど、新規高卒者への影響を心配する声があります。本校では、3月2日から2学年就職希望者の面談に入っています。現在、61名の生徒が就職を希望しています。就職希望調書を基に、就職意志・希望職種・就業地域の確認や就職活動への助言を行っています。これからの限られた時間の中で仕事への興味を明確にし、企業を研究する中で志望する会社を具体的に絞っていくことが重要になってきます。

自分が何をしたいのか、何ができるのか、自分の長所を大きく生かすことができるように、よりよい職業よりもより自分に適した職業を検討して欲しいと思います。大きな不安を抱え、気持ちが大きく揺れ動く年頃だ

## ご家庭より

1年普通科

高校1年生になったかと思ったら、あつという間に1年間が終わろうとしています。中学校時代と比べても、ずいぶん時の立つのが早いと、息子も言っています。おそらく中学校と比べて、高校は毎日がとても密度の濃い日々なのだろうと思います。高校を卒業したら県外に出ていくと言っていますから、息子と家で過ごせるのは、あとわずか2年間です。落ち着いて過ごせる環境を家で作れば良いなあと思っています。

1年普通科

娘が文徳高校に入学して1年が過ぎようとしています。母親の毎朝の弁当作りも4年目を迎えた大変ながらも、「おいしかった」と言ってくれると嬉しいようです。文化祭では着物を着て、茶道

けに、「ご家庭でも多くの話し合いを重ねられ、子供達をしつかりと支えて頂きたいと思ひます。文徳高校は、生徒一人ひとりの進路保障のために、全力を尽くします。

のお茶会の仕事をされる様子を見て、充実した学校生活を垣間見ることができました。娘はニュージランドでの研修を楽しみにしており、ニュージランドの文化や自然などを調べています。いろんなことを肌で感じ、学んできてほしいと思っています。

1年普通科

熊本城マフソンのボランティアに子供が参加させていただきました。朝早くからでしたが、自分で起きて、集合場所までの距離の移動も自分で調べて行っただけです。

1年普通科

文徳の入試で家庭学習の娘を

## 部活動等結果

### 空手道1・2年生大会

3月8日に、八代市東陽町スポーツセンターで行われた「平成26年度第28回熊本県高等学校空手道1・2年生大会」において、1年生の部団体組手で、佐藤くん(1T1 佐敷中)・福本くん(1T1 七城中)・松本くん(1T1 湖東中)が3位、男子個人組手で、福本くん(1T1 七城中)3位、1年生女子の部では、山本さん(1F4 武蔵中)が、個人形で2位、個人組手で3位という成績を収めました。



見ながら、早いものであれから1年経ったのだなあと思ひ返しました。発表の日まで親子共々ドキドキして落ち着かない日々を送った事を思い出しました。

私立の受験先を決める時、どこにしようか迷いましたが、文徳にして良かったと、娘と話しています。

1年普通科

文徳高校に通い始めて、もうすぐ1年が経とうとしています。思えば1年前、いくつか受けた公立・私立高校の中で唯一合格したのが文徳でした。合格通知をもらった時の嬉しさは、いまだに忘れることができません。

2年普通科

早いもので2学年も終わろうとしています。文徳高校に入学し、朝課外がない日以外は学校まで送ることが日課となりました。小・中学校時代9年間、校則で車での送迎は禁止。バスでの登下校が習慣となっていたのが見事に崩れてしまいました。車内では楽しく談笑したり、心の内を話してくれたり、いい時間を過ごせる日もありますが、早起きできない娘を叱りながら運転する日やケンカをし

た日は、お互い無言という日もありました。高校生活は、あと1年もありません。これから大学受験を迎えるにあたり、ますます大事な時間を過ごすこととなります。高校を卒業し、この朝の時間を「いい時間だったなあ」と思ひ出してくれたら嬉しく思います。

この4月から、長男に続き次男も文徳高校に進学することになりました。

文徳高校を志望した理由は、それぞれ違いますが、夏のオーブンキャンパスに参加させていたから、それまでの志望校ではなく、文徳に行きたいと言ひ出しました。兄が楽しく通っていることも理由の一つでしょうが、生徒さんの顔がいきいきしていること、自分がやりたいことを応援していただける雰囲気、次男にも伝わったのだと思います。

2年理工科

先日、息子が自転車転倒して怪我をしました。通りかかった文徳中の保護者の方が手当てをして下さって、文徳中の先生に電話をかけてくださり、文徳中の先生が高校の部活の先生に電話。迅速な対応をしていただき、息子が大変お世話になりました。感謝・感謝です。

## 崇城大学通信 No.48

彫刻で内面を表現する  
～現地の素材で人物像の叙情豊かに～



芸術学部 美術学科(彫刻コース)  
勝野 眞言 教授

長野県の本谷という田舎で育ちました。都会で制作活動をしていた頃でも人間の曲線と山の稜線が重なってみえていたくらい、田舎の風景に愛着があり作品にはその気持ちが入ります。「人物像で風景を表現したい」という思いで作品を創っています。教員となってからは「地元で掘り出した粘土を使って手作りの窯で焼く」そんなワークショップを熊本中心に各地で行ってきました。自然を相手にしていますので、出来上がりは予想しない叙情豊かなテラコッタの色が現れて感動します。炭化した黒い部分とテラコッタの特徴的なオレンジ色の濃淡とのコントラストは、神様の贈り物と思うほど美しい作品に仕上がります。学生たちには、「モデルをしっかり観察すること」の重要性を説いています。表面をみるだけではなく内面まで想像力を働かせながら観察することで作品のフォルムや処理に影響するからです。これからも学生とともに自然との対話から作品を生み出して感動を伝えたいと思います。

1年理工科

私が23日前から体調を崩し、ぼんやりしながらの弁当作り。

## 新聞投稿欄掲載者

- 【2月】  
池田くん(2T3 松橋中 2/23 熊日)  
高田さん(1F2 鮑田中 2/24 熊日)  
坂本くん(2T3 玉陵中 2/27 毎日)
  - 【3月】  
矢ヶ部さん(3F4 花陵中 3/8 毎日)  
矢ヶ部さん(3F4 花陵中 3/9 朝日)  
瓜生くん(2T3 鮑田中 3/11 毎日)
- ※前回の【2月】の「矢ヶ部さん(3F4 花陵中 2/5 朝日)」は「矢野さん(3F4 花陵中 2/5 朝日)」の間違いでした。お詫びして訂正します。

